



当院は高齢の入院患者が多く、誤嚥性肺炎による入院が1割を超えます。このため、高齢入院患者に対して、適切な嚥下機能評価を行い食事形態の選択、嚥下機能訓練を行う事は、その後の誤嚥性肺炎の再発・入院後発生を低下させる上で非常に重要です。

当院では、入院時に看護師による嚥下機能評価を行い、精査が必要な患者を抽出。その後精査養成患者に対して言語聴覚士と医師により嚥下



内視鏡検査を行

っています。実施しなかった患者は経管栄養などのため、主治医が検査不要と判断した患者です。

評価後は、食事形態決定、看護師・リハビリによる訓練を行い、退院時は家族・施設職員へ食事介助などの助言を行っています。

今年度は昨年よりも低下しましたが、精査必要と判断し、嚥下内視鏡検査を実施した件数は2011年以降毎年増加しています。



誤嚥性肺炎に対する嚥下機能評価・訓練実施割合	
分子	内、嚥下機能評価・訓練を受けた患者
分母	「誤嚥性肺炎」入院患者
表示	年間合計

